

## 支所発地域力向上支援金事業実施報告書（自己評価）

令和3年2月8日

地区名	篠ノ井地区
事業名	人力運搬手段の利用（リヤカーの購入）
団体名及び 代表者名	(団体名) 国道区 (代表者名) 区長 山田 文雄 (連絡先) 090-1264-9400

## ■事業概要

イベント時の荷物運搬手段として車以外には無いため、小回りの利く人力運搬手段を得たい。人と人の繋がりにも期待できる。特に子供達が参加する廃品回収は、子供と大人との連携作業により子供達の育成にも利用する。一方、非常時は小回りの利く手段を得られるので補助作業に活用する。	【総事業費】 117,172 円 【補助金額】 100,000 円
--	--

別添え活動写真集による	
-------------	--

※資料等ある場合は添付する。

## ■事業効果（目的の達成度・地域への貢献度等について）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民待望のリヤカーであり愛称の提案があった。募集して名前「こくちゃん」をつけ、本体にペンキ書きして親しみを持たせることができ、シンボル化した。</li> <li>・区民が、運搬手段以外に思わぬ利用方法（移動式の物置）を行い応用効果があった。</li> <li>・草刈り等の清掃作業では、廃棄物を指定場所まで効率よく運搬できた。今年度はイベントが少なかったが、今後は子供たちとのイベント等に大いに利用できる。</li> <li>・要支援者を想定して人の搬送訓練を実施した。感想をもらい、荷台に敷板要望があり製作できた。また、この板との組み合わせ利用が他にも（移動式物置・テーブル）期待できた。</li> </ul>
--

※参加人数等、数値化して効果を表せるものがあれば数値化したものも加えて記載をお願いします。

## ■自己評価（該当欄に○）

	予定を上回る	予定どおり	概ね予定どおり	予定を下回る
事業の実施		○		
事業の効果	○			
特記事項 (評価理由等)	要支援者搬送訓練より得られた情報から、荷台用に敷板を製作した。もう一工夫で、これが他の利用方法につながる利便性を高められる。			

## ■今後の取組予定

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用時に簡単にリヤカーを取り出せるような小屋があると便利になる。次年度以降に検討したい。（現在は狭い場所に保管しています）</li> <li>・利用規定を作成して、区民がいつでもチョット利用できる体制づくりをする。</li> </ul>
--



図. 1 リヤカー到着 荷物の開梱



図. 2 商品に不具合がないことを確認



図. 3

しののい公園の愛護活動  
(清掃・草取り・柳の枝打ち)  
における草・枝の運搬に利用



図. 4

仮の要支援者を設定して  
人の搬送訓練を実行  
(乗り心地や不具合点を聞き参考とする)



図. 5

市道の草刈りにおいて  
刈り草運搬に利用



図. 6

同上



図. 7

餅つき大会で導線確保の為  
物置き場所としても利用  
(大変都合がよい道具です)



図. 8

スペースを決める重要で便利な  
道具で快適利用  
(机にない便利さあり)



図. 9

愛称を区民から募り「こくちゃん」に決定。  
国道区の名前とナンバープレートを遊びで記入。  
国道 20・・・ 2020年度事業  
あい 7-9・・・ 国道公民館の住所  
区の館報(3月1日発行)に掲載して区民に見ていただきます。



図. 10

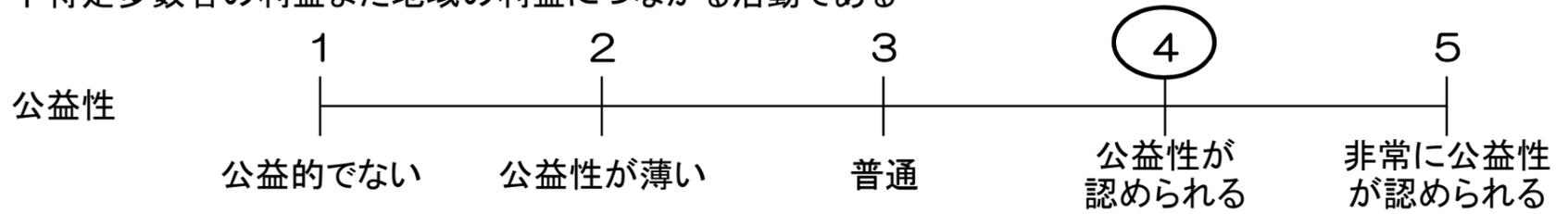
反対面です。  
荷台の敷板：針葉樹材の合板を利用し、反りが出ないように  
胴縁で補強してあります。

支所発地域力向上支援金 事業評価（篠ノ井支所）

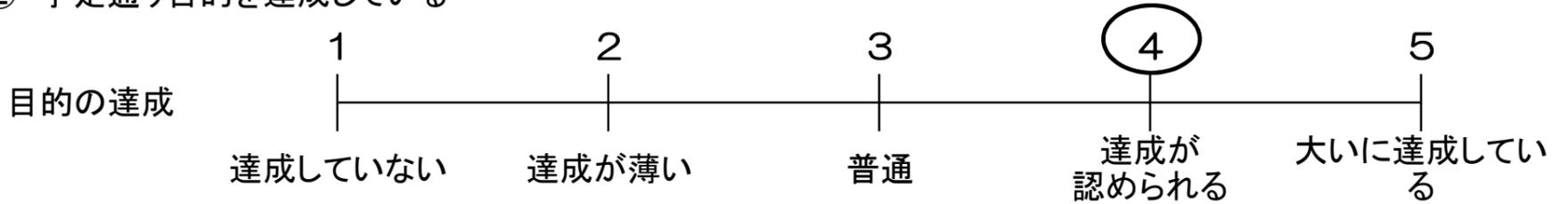
事業区分

評価項目

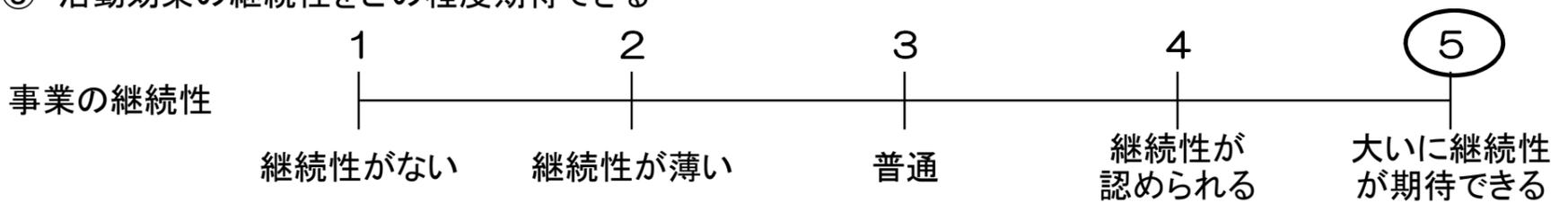
① 不特定多数者の利益また地域の利益につながる活動である



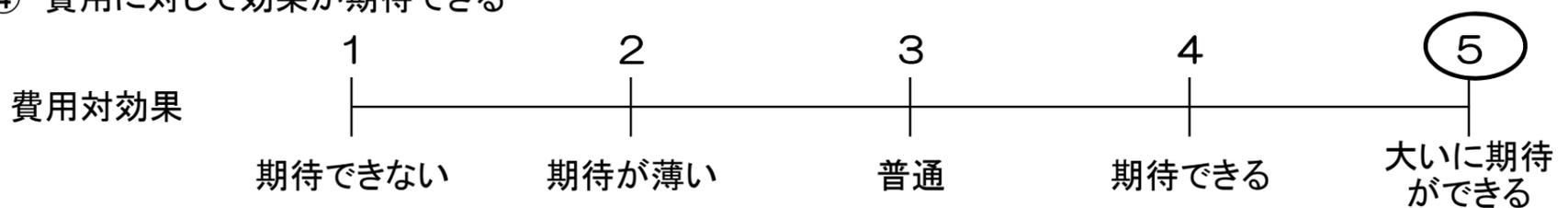
② 予定通り目的を達成している



③ 活動効果の継続性をどの程度期待できる



④ 費用に対して効果が期待できる



支所長の総合評価

リヤカーの愛称を区民から募集し、その名前を本体に書き、地区住民が親しみを持てるように工夫した。

今年度は、新型コロナウイルスの影響があったが、当初計画した活動は実施することができた。単にモノを運搬するだけでなく、災害時における要支援者の移動を想定し搬送誘導訓練を実施するとともに、乗り心地や不具合を確認し使いやすさを探求している。

リヤカー1台で、様々な用途に使用可能であることを実証したが、来年度以降は子どもたちも参加できるような環境を整え、リヤカーを中心とした世代間交流も行うことで、今後も大いに期待できる事業である。